

# 第三回 アセスメント研究会

平成22年12月

横浜商科大学 地域産業研究所

農林水産省

フード・コミュニケーション・プロジェクトチーム

# 研究会の概要

- 研究会主催 : 横浜商科大学 地域産業研究所  
研究会サポート: 農林水産省 フード・コミュニケーション・プロジェクト(FCP)事務局

- 研究会の目的 :

フード・コミュニケーション・プロジェクト(以下FCPとする)の基本的な考え方に基づき、「協働の着眼点」等を活用したアセスメント全般(セルフ、二者間、第三者)に関する個々の活動の情報を共有し、広く普及させるための意見交換を行います。

- 主な活動 :

本研究会では、具体的に「協働の着眼点」や、それに基づく評価軸等を活用した、アセスメント全般(セルフ、二者間、第三者)に関する個々の活動をご報告いただき、情報を共有します。

また、個々の活動のスムーズな立ち上がり、評価軸の共有化の可能性、アセスメント全般の認知度向上等に関する、ご提案や課題解決に向けた意見交換を行います。

さらに、「協働の着眼点」を活用した食品事業者の取組事例に関する情報を広くご提供いただくとともに、「協働の着眼点」をより良いものに見直すための情報の提供、改善に関する意見交換を行います。

## ○ これまでの開催概要

【第1回 研究会】：7月2日(金)14:00～16:00、合同庁舎4号館

平成22年度アセスメント研究会の進め方についてご説明した後、ご出席者それぞれから、自己紹介と「協働の着眼点」の活用状況についてご報告をいただき、今後の「協働の着眼点」の活用に関する意見交換等を行いました。

【第2回 研究会】：10月8日(金)13:30～15:00、合同庁舎4号館

第1回の意見交換で話題になったアセット・ベースト・レンディング(ABL)と「食の信頼！業務格付け制度」について、みずほ銀行様とアイ・エス・レーティング様から話題を提供していただき、それに関して意見交換を行いました。

【全体中間報告会】：東京大学にて11月8日(月)実施

## ○ 今後の予定

【第3回 研究会(最終回)】：12月10日(金)10:30～12:00、合同庁舎4号館

研究会の取りまとめ、及び今後の展開。

【全体成果報告会】：東京大学にて3月8日(火)実施予定(後日ご案内)

## ○ 参加者の取組報告(第一回研究会より)

- ・具体的なビジネスとして、「協働の着眼点」の16項目における小売業向けの、衛生管理やクレーム対応のあり方などのルール作り、衛生管理基準の作成を検討。
- ・取引先やグループ会社を含め、FCMを活用し、「協働の着眼点」を浸透、普及させていけるような活動を予定。
- ・金融機関としても、財務データのみでの企業評価には限界を感じており、業務内容や経営者の姿勢等は、与信上も大切な判断材料であり、今後の主流となる可能性。本研究会における様々なアセスメントに関する活動を、新たな企業評価のツールとして活用を検討。
- ・現状金融機関においては、「協働の着眼点」を、営業担当における食品事業者を見て行く上での教育ツールとしての活用を想定。
- ・保険への活用という観点からすると、リスクの「見える化」が必要となる。そうした点から、本研究会を通じて、今後の「協働の着眼点」の活用に関して検討。

## ○ ABL、業務格付けに関する意見と課題(第二回研究会より)

- ・中小企業等には、動産や債権など事業収益の源泉となる多様な資産を資金調達に活用したいとのニーズ。
- ・動産の評価という観点において、動産、特に加工品等の最終製品の場合は、処分する際の価値の算出が困難。また、関連法律により、処分が容易でないものがあることも課題。
- ・財務評価に限らず、業務全般を評価していくことは、与信判断上も大切。ただし、評価に係るコストが高い点が課題。
- ・食品そのものを動産担保として融資を受ける際、平時から緊急時までの危機管理体制を重点に評価方法を模索することも重要。
- ・業務格付けは、それを受けた企業からは、営業面への活用や自社の業務に関するレベル向上への利用等、様々な効果への期待。
- ・PL、リコール保険等と業務格付けの連携の可能性に関して、取得している格付けに応じた保険料の割引、また保険に加入していると格付けの評価が上がる、という両面の可能性。
- ・「協働の着眼点」を活用した評価に関する全体スキームを研究会メンバー有志等で検討し、評価事業全体に関する認知度の向上、普及を進めて行くことが重要。

# 今後の展開

## ○ アセスメント研究会について

- ・アセスメント研究会単独での活動は、第三回の開催で予定を終了。発起人(地域産業研究所所長小林)がピッツバーク大学(UPB)に交換教授として赴任するため、今年度の活動を一端総括し、研究会メンバーで共有。
- ・来年度の活動については今後、研究会参加の皆様や農林水産省FCP事務局にもご相談して、判断して行く予定。

## ○ 参考 : FCP普及・戦略研究会について (下図参照)

- ・FCP普及・戦略研究会が今後取り組む研究テーマには、アセスメント研究会での活動と関連の深いテーマも多い。
- ・今年度12月以降のFCPの展開について情報共有や意見交換を希望される方には、FCP普及・戦略研究会へのご参加を推奨。

■農林水産政策研究所・研究委託事業の全体フレーム■

